

**【テーマ1】人が集う場所になるために
— 斎藤清美術館における持続可能なアートアクティビティの構築 —**

市町村名： 柳津町(教育課美術館係)

コメント：

【調査研究において、どんなところに関わりましたか？】

- ・各種ワークショップの準備(材料の調達・会場設営の補助)
- ・広報関係(チラシの作成・SNS等への発信)

【調査研究をとおしてどんな効果を感じましたか？】

今回のテーマは、地域の美術館として存続していく上で必須課題である。一方で、人員が限られる中、美術館のみの企画実施は厳しい状況にある。そこで、これまでも官学連携の試み自体は行ってきたが、今回一番の収穫は、本課題に取り組むパートナーとして、地元の大学とつながれたことである。

【どんな点に苦労しましたか？】

スケジュールの調整：特にワークショップの内容が開催日近くまで確定せず、広報が十分にできなかった。調査研究に携わってくださる大学も、またこちら側も、多くの事業を抱えており、ともに多忙であることは十分承知しているが、例えばミーティングの機会をもう少し増やすなど、情報や状況をすぐに共有できる場づくりが必要だったと思う。

【今後に生かしていきたいことはありますか？】

今回ワークショップで使った創作体験キットはすべて館内に常設予定である。そこを拠点に、子どもをはじめ人々が自然に集えるようなスペースへと育てていこうと模索中である。さらに大学とは、本キットを活用した定期的なワークショップの開催等、今後の事業展開についてもすでに話をしているところである。

【その他、何かコメントがあれば！】

会津DX日新館に参加したことで、会津短期大学の葉山先生とゼミのみなさんとのご縁ができ、地域の美術館としての今後の展開に大きな可能性や希望を見出すことができた。ありがとうございました。

そして、引き続き頑張っていこうと思いますので、見守りついでに 斎藤清美術館に遊びに来てください！